

## 政策コンセプトのイメージ（事務局案）

### 1 関西の特徴

- ・ 都市と農山漁村が近接し、都市と自然の魅力を同時に享受できる希有の圏域
- ・ 阪神淡路大震災の経験も経て、共助や自主独立の意識が育まれている圏域
- ・ ①世界屈指の科学技術基盤、世界的な大学・研究機関・医療機関の集積、②世界的に価値のある歴史・文化遺産の集積など、世界的な地域資源を有する圏域

### 2 政策コンセプトのイメージ

#### ○二地域居住を核とした人が常に循環する「移動モデル」を創造

～移住者の負担軽減に配慮した二重住民登録制度、住み替え支援等、新たな制度・しくみを提案～

- ・ 都市から多自然地域への「人の流れ」をつくり、二地域居住など「居住の流動性」を促進。移住者の負担軽減に配慮した二重住民登録制度などにより、関西から「人の環流」を先導

#### ○多世代、多様な人々が交流する自立した「ミックス・コミュニティ」を創出

～「医職住一体」「三世代近住」を基に、人々がいきいきと活動できるしくみを提案～

- ・ 「医療首都関西」を目指す取組、人々の暮らしを重視し、「医職住一体」「家族重視」「三世代近住」に基づき、人々がいきいきと活動できる「多世代が交流するミックス・コミュニティ」を創設

（地域の自主性に基づき再生された「まち」を他の「まち」とつなぎ創造都市を形成）

（神山をモデルに小さな拠点と魅力ある集落をネットワークでつなぎ創造農村を形成）

- ・ 阪神淡路大震災の経験を活かし、各地域が住み替え支援や移動支援を核とした多様なサービスを提供するワンストップ主体を構築し、「共助コミュニティの再構築」を関西から先導
- ・ 国は地方への恒常的な財政支援、地方は地域の取組への総合的な人的・財政的支援を行う役割分担のもと、地域の自主的な取組をシンプルに最大支援する枠組みを確立
- ・ 子育てに幸せを感じる関西を実現するため、仕事から家庭にシフトした働き方を基本に、経営者の意識改革の促進と幼少期も含めたライフステージごとの総合的な支援を推進
- ・ 小さな産業集積、コミュニティビジネス、地域内循環の取組などにより「ローカル経済」を先導

#### ○「ヒトノミクス」による地域創生

～キーマンの見える化と他分野連携のしくみ、重層的な人材育成のしくみの提案～

- ・ 府県市が中心になり、地域づくりに関わる「キーマン+α」を発掘・確立するとともに、キーマンのノウハウを次代に継承する「持続可能なしくみ」、さらに「人材育成」のしくみを確立

## ○小さな産業を足場に、オンリーワンの技術で世界に羽ばたく「モデル企業」を創出

～スピード感ある新たな特区を束ねた「スーパー経済特区・関西」の提案～

- ・ 東京以外の地方の法人税率の負担を低くするなど、さらに制度提案を行うとともに、人材確保、コスト削減など、関西の魅力を徹底的に高め、関西から「企業の地方分散」
- ・ オンリーワンの健康・医療産業等の集積、これに加え、ICT、エネルギー産業等、地域から最先端技術で世界に羽ばたく企業を創出し、「グローバル経済」を先導
- ・ 小さな産業集積、コミュニティビジネス、地域内循環の取組などにより「ローカル経済」を先導
- ・ 申請によらないスピード感あるエリア限定特区や分野限定特区を束ね、規制改革等と財政支援が集中する「スーパー経済特区・関西」を実現
- ・ 教育基盤の充実 ～大学統合も視野に入れた大学連携と地域と大学の連携～

## ○「アジアの文化観光首都、防災首都を目指す取組」を推進

～「文化庁」等の関西移転、「防災庁（仮称）」の関西への新設を提案～

- ・ 創造都市、創造農村をネットワークで結び「関西観光・文化圏」を形成・進化
- ・ 「文化庁」「観光庁」など平時からの分散を実現
- ・ 阪神淡路大震災等の経験等により、関西への「防災庁（仮称）」の創設を提案
- ・ 南海トラフ巨大地震等に対する広域災害対応、共助コミュニティと災害時の後方支援を担う自給自足の基盤づくりを推進するとともに、多軸型国土形成を実現

## ○「地方分散の受け皿」として最適な関西圏の創造

～最高裁判所等の国の機関、「企業」の地方分散、徹底したインフラ整備の提案～

- ・ 関西で首都機能バックアップと「最高裁判所」「文化庁」「観光庁」など平時からの分散を実現
- ・ 東京以外の地方の法人税率の負担を低くするなど、さらに制度提案を行うとともに、人材確保、コスト削減など、関西の魅力を徹底的に高め、関西から「企業の地方分散」を先導
- ・ 徹底したインフラ整備 ～東京に匹敵する徹底した「広域インフラネットワーク」の構築～